

# 質 疑 応 答

Q：2026年3月期の見通しについては、期首予想であるため保守的な数値での試算ということでしょうか。

A：前年度に比べて減益の予想となっていますので、保守的という印象をお持ちになるかと思いますが前年度が非常に好決算でありました。潤沢な手持ち工事が順調に推移したことに加えて、特に大きな要因として、土木部門における複数の大型案件工事の設計変更獲得があげられます。今期については、現状では、前年度ほどの設計変更は見込めないと予測しており、前年度比では減益予想としております。われわれとしては、当然予想値以上の利益を目指してまいります、現時点での予想としては、妥当な数値であると考えております。

Q：中長期的な課題であろうかと思いますが、担い手不足が進んでいくと業界としてはプレキャストの活用が進んでいくかと思えます。御社は、工場を保有しておりますが、現状の工場の課題や今後の戦略についてお聞かせください。

A：土木事業、建築事業ともにプレキャスト化は、生産性向上に大きく貢献できる技術であり、今後の需要拡大が期待できると考えております。当社の経験豊富な分野でもあり、プレキャストの活用は当社の強みであると認識しており、特に注力すべき分野だと考えております。当社の製造部門を担う関係会社のピー・エス・コンクリートが強みの一つになりえると思っておりますが、それ以外の地域においても、地場のプレキャスト製造会社とのネットワークを強化することにより、日本中に製品を供給できる強固なサプライチェーンの構築を進めております。また、当社関連の工場に関しては、これまで設備の老朽化対策としての投資が中心でしたが、今回の中期経営計画2025では、生産性を高めるための将来に向けた設備投資を強化することで、競争力を高める方針としております。

Q：土木事業において、豊富な手持ち工事がある状況だと理解しました。今後、高速道路の大規模更新・修繕事業の発注は減少傾向とのことですが、この事業はどの位の期間継続すると見込んでいますか。

A：ご指摘のとおり、高速道路の大規模更新・修繕事業については、近年急激に市場が拡大してきましたが、ここ2、3年は、ピーク時に比べ若干減少傾向の発注となっております。ただし、今後も現状規模での発注は続くであろうと見込んでおります。一年ほど前に公表された大規模更新・修繕事業の進捗状況は、当初計画に対して約48%となっております。また、その後の点検により新たに補修工事等が必要な場所が追加されたことから、今後、10年程度は期待できると見込んでおります。

Q：建築事業においては、防衛関連施設の工事が増えるということですが、どのようなものなのか規模感等の解説をお願いします。

A：防衛費の予算は、かなり増額になっておりまして関連施設の建設が今後見込まれるものです。全体の

ボリュームとしては高速道路の大規模更新事業と匹敵する規模感と期待しているところです。ただし、本事業はまだ始まったばかりですので、詳細については不明な点が多いのですが、発注量としては相  
当な規模が期待できると考えています。内容としては、宿舎や倉庫等の建築事業に関わる案件が数多  
く計画されておりますが、建築だけでなく土木の分野においても港湾や空港等の整備もあります。特  
に工期短縮を求められる案件もあるとのことですので、当社としてはプレキャストの活用が有望なも  
のを中心に組み込んで参りたいと考えております。

以上